



社協だより

平成30年 1月15日発行

社会福祉法人 士別市社会福祉協議会 士別市東5条3丁目 サポートセンターしべつ内(TEL22-3012)

<http://www.shibetsu-shakyo.jp/>



わかちあう幸せ

西児童センター



ユキモダン&ジャズバレエ士別教室



パフォーマンスグループPLuto

第36回歳末チャリティーふれあい演芸会

ボランティアサークルむぎの会(田中洋子会長)主催の「第36回歳末チャリティーふれあい演芸会」が12月3日に士別市民文化センターで開催されました。

この日は、22団体・個人約200人が出演して、幼稚園児らのお遊戯や一輪車・バレエ・フォークダンス・舞踊・吹奏楽・フラダンス・大道芸などバラエティーに富んだ内容で訪れた観客は多彩なステージに終始大きな拍手を贈っていました。

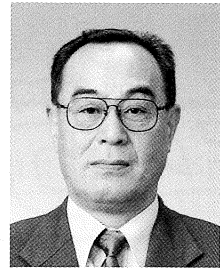
入場料の益金は、38万8025円という大きな金額となり、「歳末たすけあい募金」として共同募金委員会に寄付されました。ご協力いただいた市民のみなさまに心より感謝いたします。



やさしい心ありがとう

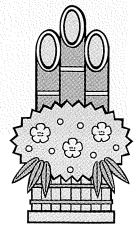
ボランティアサークルむぎの会

新年のご挨拶



社会福祉法人
士別市社会福祉協議会

会長 齊木 勲



明けましておめでとございます。

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素より、社会福祉協議会に対しまして、暖かいご支援ご協力を頂き心から感謝申し上げます。

さて、昨年度においては、地域支え合いの再編を目指す「地域共生社会」の実現に向け、支え手、受け手という関係を超えて、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり、他機関協働による総合的な相談体制づくり等、地域福祉を軸としたその取組みが示されました。

この内容は、市町村による包括支援体制等を構築する試みであり、これまでの社協として取り組んできた方向性と合致するものです。

地域住民と向き合い、関係機関と連携し、さらに市と協議を図りながらの対応が求められており、社協本来事業であります小地域福祉活動の充実と強化をなお一層、推し進めてまいります。

今後、市民の方々に住み慣れた地域で、安心して生活できる福祉のまちづくりに、鋭意努力してまいりますので、特段のご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を衷心よりお祈りし、新年のご挨拶いたします。

歳末チャリティー 第33回カラオケ選手権大会

しべつふれあいの会（帯川政喜会長）主催の「歳末チャリティー第33回カラオケ選手権大会」が12月10日に士別市民文化センターで開催され、会場は、満員の観客で埋め尽くされました。今回の選手権には、23人が出場、これまで練習を重ねてきた歌を披露し、観客から盛んに拍手が贈られていました。

また、ゲストコーナーでは、過去の優勝者が出場して自慢の歌声を響かせていました。

このほか、賛助出場として日本現代舞踊徳本流すずらん会による舞踊が披露され、美しい踊りで舞台上に花を添えていただきました。

入場料の益金は、32万7630円という大きな金額となり「歳末たすけあい募金」として共同募金委員会に寄付されました。ご協力いただいた市民のみなさまに心より感謝いたします。



住みよい地域にするために 「出前講座」のお知らせ

士別市社会福祉協議会では、自治会や学校、団体、グループを対象に、地域での福祉活動の推進、福祉のまちづくりのため、また、社会福祉協議会の活動を知ってもらうこと等を目的に、職員・講師などによる出前講座を行っております。

○講座のメニュー

- 小地域ネットワークづくり事業
- 地域支え合いサロン開催モデル事業
- 介護保険制度
- ボランティア活動事業
- 学校教育事業
- 日常生活自立支援事業
- 成年後見人制度

○開催の日時、内容についてはお申し込みいただいた際にうち合わせ調整させていただきます。

○出前講座の利用料金は、無料です。いつでもお気軽にご連絡下さい。

○お問合せ・申込み

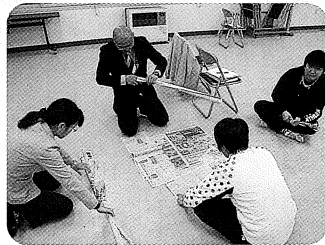
士別市社会福祉協議会事務局
士別市東5条3丁目
サポーターセンターしべつ
TEL 22-3012

11月17日、士別市教育委員会社会教育課兼学校教育課主幹で元士別市ボランティアセンター運営委員の藤田泰昭さんを講師に、「学校におけるボランティア活動を考える」をテーマに、実際に小中学校、高校においてボランティア活動を推進していただいている先生方を対象に、講義をしていただきました。



講義では、「あたりまえ体操」という、あるお笑い芸人のネタを視聴したうえで、「あたりまえじゃない場面はどのようなことが考えられるか」という質問が投げかけられ、グループに分かれて討議しました。個性を認めあう、良いところを見つけることが大切であること。人それぞれの「あたりまえ」があり、自分の「あたりまえ」が違ふと許せない、といったこともあるが、他人のあたりまえを知ることで、良好な人間関係を築くことが出来る、といったことを話されていました。

また、障がい者は「かわいそう」だという思い込みが社会の中にあることについて、本人にとっての「障がい」も見方を変えると「個性」に変わり、社会の側が工夫することで障がい状態ではなくなるのではないかといった考えもお話されました。互いに認めあい、社会が本人に合わせて工夫することが「合理的配慮」という現在の考え方であることも紹介。



また、「新聞で高いタワーをつくる」などのミニゲームなどで和気あいあいと時間を過ごし、先生方は生徒の気持ちに戻って大変熱心に、参加されていました。

「福祉の店シュペツ」ご紹介

西條百貨店士別店の2階エレベーター前にある、「福祉の店シュペツ」をご存じでしょうか？同店のご厚意により、平成9年2月にオープンした「福祉のお店」です。



お店では、つくも園や士別愛成会るんべるなど、士別を中心とした施設や作業所を利用する方の作品を販売しています。クッキーやトマトジュースなどの食品や、ストラップやキーホルダーなどの可愛い小物、石鹸などの日用品…。手づくりならではの、心のこもったあたたかい商品がたくさんあります。

「シュペツ」は、「障がい者の雇用促進」を目的に運営しており、現在、身体障がい者3名、知的障がい者2名が店員として活躍しています。

開設から現在まで、関係機関の皆さまを始め、多くの方々にご協力いただき、2018年2月で21年目を迎えます。今後とも、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

西條士別店にお立ち寄りの際は、ぜひお越しください。店員一同、笑顔でお待ちしています。



